

城南家保ニュース Vol. 21-4

熊本県城南家畜保健衛生所 平成21年 7月 発行

<http://www.pref.kumamoto.jp/site/179/>

電話 0966-22-3814、FAX 0966-22-3617



家畜の暑熱対策について

乳牛では暑熱ストレスにより、病気に対する抵抗力が低下していて乳房炎に罹りやすい状態にあります。体力の低下予防にも、ビタミンの豊富な飼養を給与すると良いでしょう。

夏場に分娩、または泌乳期をピークに迎えるものは、周産期疾病を起こすものが多くみられます。分娩前から飼料添加物と併せて高単位のビタミン剤、低Ca血症予防にもミネラルの給与が必要です。

またアシドーシス（酸性体質）になっているものは重曹の投与も効果的です。



和牛は乳牛に比べ暑熱ストレスは少ないと言われていますが、繁殖牛では、濃厚飼料多給により繁殖成績の低下を招く場合があります。暑さで疲れた胃腸などの回復に良質な粗飼料を与えることで体質改善を行い繁殖成績を改善しましょう。

夏場に分娩、種付けを迎えるものは、周産期疾病などを起こすものが見られます。対策としては分娩前から飼料添加物と併せて、マグネシウムやカルシウムなどのミネラルの給与が必要です。



豚は、他の家畜と違い汗腺の発達が遅れていて、体温調節が弱いとされています。繁殖豚では、分娩房の風通しに気を遣い、繁殖性の低下を招かない飼養管理に気をつけましょう。

遮光ネットによる直射日光の遮断や、冷水の頸部滴下などの工夫も必要です。また、豚の積み込みや移動などは朝か夕方方の涼しい時間帯が暑熱ストレスを軽減させます。食べ残した飼料は、まめに除去し、衛生管理に気をつけ、新鮮な水は切らすことのないようにします。繁殖成績が低下し始めたらニンニクやビタミンの投与、青刈り粗飼料の給与も効果的です。





鶏では鶏舎内および鶏舎周囲の整理整頓を行い、風の通りを良くしましょう。

遮光ネットや防鳥ネットへのくもの巣など目詰まり除去も重要です。新鮮な水は切らすことがないように行い、給餌は朝夕の涼しい時間に行ってください。

知っ得コーナー

地球温暖化による影響は？

最近50年間の気温の上昇は過去100年の上昇速度の2倍、100年後は1.8~4℃上昇すると云われています。気温の上昇は地球の海面水位の上昇を招きますが、一方大気中の二酸化炭素濃度は増加すると海洋中に溶け込み二酸化炭素量も増加、海の酸性化が進みます。

結果としてサンゴやウニなどの石灰化生物はその骨格が溶け出し、これに依存する生物も大きな影響を受けます。その他地球温暖化による野生動物への影響として

1) マダラヒタキという鳥は繁殖期に餌となるチョウやガの幼虫の発生ピーク時期が早まることで子育て期間に餌が足らなくなり地域によっては最大90%の個体数が減少。

2) コスタリカの高地に生息するカエルは異常気象によるカエルツボカビ病の大流行により生息数が激減。

3) その他南極のアデリーペンギンやシロクマなど挙げればきりがありません。

今や“地球温暖化対策は待ったなし”と言えます。